

詩編 56 : 9

マタイによる福音書 5 : 4

「悲しむ人々は幸い」

【招詞】 ヨハネによる福音書 4 : 23~24

【讃美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 51 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 2 「聖なるみ神は」

【祈祷】

【聖書】 詩編 56 : 9

マタイによる福音書 5 : 4

【説教】 「悲しむ人々は幸い」

<悲しむ人々は幸い？>

わたしたちは毎週礼拝で、イエスさまの「山上の説教」の御言葉を、一節ずつ聞いています。今日のところは「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」というイエスさまの御言葉です。

「悲しむ人々は、幸いである」。イエスさまは、そう言われました。

…でもそれは、本当でしょうか。悲しいことは、不幸なこと、ではないでしょうか。

わたしたちは、悲しい出来事が起こらないことが、幸いなことだと考えます。あるいは、悲しいことがあっても、それが解決すること。あるいは、悲しみが消えていくことで、幸いになることができる、と考えます。

でも、イエスさまは、「悲しむ人々は、幸いである」と、仰ったのです。

では、どのような悲しみが、「幸いである」と言われる、「悲しみ」なのでしょう。

このことについては、これまで教会の中でも、色々と考えられてきました。

ここで言われている「悲しみ」とは、自分の罪に気づかされ、悔い改めるときの、心の痛み、悲しみのことだ。

いや、これは、日々の悲惨な出来事に遭った時の、あらゆる悲しみのことだ。

あるいは、この「悲しみ」という言葉が、死に対する嘆きや、喪に服するとき、亡くなった人を悼むときに使われる「悲しみ」という単語であることから、これは、愛する人を失ったときの、嘆き悲しみのことだ。そう解釈されることもあります。

…でも、わたしたちは、本当は、悲しみの只中にあるときに、どちらの方が、本当の悲しみだとか。どちらの方が、幸いへ至る悲しみだとか。そんな風に、悲しみを他の誰かのものと比べたり、種類を分けたりすることなど、出来ないのではないのでしょうか。

悲しみは、人と比べることはできませんし、その必要もありません。小さい悲しみとか、大きい悲しみとか、その量を測る必要もありません。

悲しみは、厳然たる事実として、今ここにある悲しみなのです。その人が、そこで味わい、打ちひしがれている、現実の悲しみなのです。

悲しい出来事は、起こります。一人一人、その出来事も、感じ方も違います。

そして、わたしたちは、その悲しみに、押しつぶされそうになることがあります。悲しみの大きさのあまりに、動けなくなってしまうことがあります。

そのような時には、自分の悲しみばかりに目がいってしまう。悲しみの中に閉じこもってしまう。悲しみに心を支配され、捕らわれてしまう、ということがあります。

それは、とても、孤独を感じることです。他の人には、その悲しみが、本当の意味では、分からないからです。

悲しみは、簡単に消えたり、解決したりはしません。起こった悲しみは、わたしたちの生活の一部であり、また、わたしたちの人生の一部だからです。

みんな、その悲しみを抱えたままで、背負ったままで、与えられた日々を、人生を、生きていかなければなりません。

そして時に、わたしたちは、もうそれを抱えていられない。この悲しみの重荷に耐えきれない。そう言って、叫びだしたくなること。うずくまってしまうこと。絶望してしまいそうになることが、あるのではないのでしょうか。

<慰めてくださる方>

しかし、その悲しみの只中に、イエスさまが来てくださいます。悲しみの只中にいるわたしたちの傍らに、イエスさまが立ってくださいます。抱えきれない悲しみの重荷を、イエスさまが共に抱え、背負い、支えてくださいます。

そのようにして、わたしたちを慰めるためにこそ、神の御子イエスさまは、まことの人となられて、わたしたちの、この悲しみの世に、来てくださったのです。

だから、イエスさまは「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」と言われました。

これは、「わたしが、悲しむ人々と共にある。わたしが、悲しむ人々を慰める」。そういう、イエスさまの約束であり、宣言なのです。

このことを言うことが出来るのは、まことに、わたしたちを慰めることがお出来になる、神の御子イエスさま、ただお一人だけなのです。

「慰められる」。この「慰め」という言葉は、他に、「励ます」とか、「勧める」とも訳されることのある言葉です。そして、この「慰め」という言葉そのものは、「傍らに呼ぶ」という意味の言葉から来ています。

つまりイエスさまは、悲しむ人をご自分の傍らに呼び、悲しむ人の傍らに立ってくださることによって、支え、励まし、慰めてくださるのです。

そして、そのためにこそ、イエスさまは神の御子でありながら、まことの人となられて、弱い肉体をまとい、罪に満ちたこの世に、わたしたちのところに、来てくださいました。

そしてイエスさまは、ご自身、わたしたちが経験するすべての悲しみ、苦しみ、不安、恐れを、その生身のお体で、心の底から、深く味わわれたのです。

イエスさまは、大切な、愛する者を失う悲しみを、ご存知です。聖書では、イエスさまが、はらわたが千切れるほどの思いを抱いて、涙を流された、とあります。

またイエスさまは、理不尽に責められ、裁かれ、罵られる、そんな悲しみもご存知です。イエスさまは、まったく罪のないお方なのに、罪人として扱われ、辱めを受け、侮辱され、暴力まで振るわれたのです。

また、イエスさまは、親しく愛している者に、裏切られ、否定され、疑われ、見捨てられる、そんな悲しみもご存知です。イエスさまが愛しておられた弟子たちは、イエスさまを十字架に引き渡し、イエスさまを知らないと言い、十字架の前に、イエスさまをおいて逃げ出しました。そしてイエスさまは、たった一人で、十字架の死へ向かわれたのです。

そしてイエスさまは、耐えがたい体の痛みや、苦しみもご存知です。わたしたちと同じ、弱い、傷つきやすい肉をまとわれたイエスさまは、わたしたちの罪を赦すために、わたしたちの想像を絶する十字架の死の苦しみを、引き受けてくださったのです。

ですから、わたしたちが、どのような悲しみの中にあっても、どのような苦しみの中にあっても。神の御子イエスさまがご存知ない、悲しみ、苦しみは、一切ありません。

そして、だからこそイエスさまは、深い憐みをもって、慈しみをもって、わたしたちを救ってくださり、わたしたちと共にあって、慰めてくださることがお出来になるのです。

わたしたちは、イエスさまが、わたしたちの苦しみも、悲しみも、嘆きも、そして罪も死も、すべてをご自分の背に担ってくださるということを、あの十字架の苦しみと死において、はっきりと示されました。

また、わたしたちは、イエスさまが、わたしたちの重荷を、最後まで、勝利に至るまで、担い通してくださることがお出来になる方である、ということを、十字架の死からよみがえられた、あの復活によって、はっきりと示されているのです。

このイエスさまが、わたしたちを傍らに呼んでくださる。いや、むしろ自ら低く降って、わたしたちの最も近くに、すぐ側に、来て下さるのです。

そして、わたしたちの悲しみ、苦しみの重荷を担い。このわたし自身を、丸ごと背負い。慰め、励まし、支えて、立ち上がらせてくださる。

そうして、わたしたち一人一人が歩むべき道を、イエスさまが共にあって、歩み通させてくださるのです。

<嘆きを数え、涙を蓄えられる神>

わたしたちをお造りになった神さまは、高いところから、遠くから、わたしたちが苦しみ、嘆き、悲しむのを、眺めておられる方ではありません。

今日読まれた詩編 56：9 には、このようにありました。

「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずです。あなたの記録に／それが載っているではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください。」

神さまは、わたしたちの嘆きを数えられ、一つ一つ記録し、心に留めておられます。神さまは、ご自分の革袋に、わたしたちの涙を、一滴一滴、蓄えておられます。

それほどに、神さまは、わたしたちを心にかけて、わたしたちの心を顧み、わたしたちを憐れんでくださるお方なのです。

だからわたしたちは、嘆きを、神さまに訴えてよい。悲しみを、神さまに注ぎだしてよい。涙を、神さまに向かって、流し尽くしてよいのです。

わたしたちには、嘆き、悲しみ、苦しみを、訴える相手がいるのです。叫び求める相手がいるのです。重荷を投げ出す相手がいるのです。

そしてそれは、わたしたちをお造りになり、わたしたちを愛し抜いてくださり、わたしたちを救うためになら、御子の命も惜しまず与えてくださる、天の父なる神さまなのです。

…「あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」とありましたが、革袋とは、砂漠などで飲むための水を蓄えておくものでした。

ある人は、神さまは、わたしたちの涙を飲み物とされるのだ。わたしたちの悲しみを、飲み尽くされる神なのだ、と言いました。

そして、わたしたちが流した悲しみの涙を、飲み尽くすために来てくださったお方こそ、十字架と復活の御業を成し遂げられた、神の御子イエスさまであったのだ、と。

イエスさまは、わたしたちの悲しみを、苦しみを、涙を、すべてご存知のゆえに。傍らに来て、わたしたちと共にいて、御言葉を語りかけ、ねんごろに慰めてくださいます。

そして、わたしたちの悲しみ、苦しみを、その十字架の上に担い、わたしたちの涙を、飲み干してくださるのです。

だから、わたしたちは悲しみにあっても、神さまが、わたしたちの悲しみをご存知であるがゆえに、イエスさまに慰められるがゆえに、幸いなのです。

<悲しみを担って歩む>

…悲しみは、なお、悲しみのままで、わたしたちの中にあり続けます。わたしたちは、その悲しみを乗り越えることが、最後まで、できないかも知れません。

でも、それで、押しつぶされることはない。絶望することはない。

たとえ、自分の力で、起き上がることが出来なくても。立ち上がることが出来なくても。わたしの最も近くに、傍らに、イエスさまが共にいてくださるなら。すべての悲しみ、苦しみ、嘆きを知り、わたしたちの罪をすべて背負い、死を通り抜けて、今やすべてに勝利を収められた、復活のイエスさまが、共にいてくださるなら。

わたしたちは、この方に寄りかかって、この方を支えとして、この方に力を与えられて、悲しみを担いつつも、立ち上がって、新しい一步を、踏み出していくことができるのです。

そして、わたしたちが与えられた道を歩み通すまで。終わりの日に至るまで。救いの完成に至るまで。イエスさまは、片時も離れずわたしの傍らに立ち、慰めをもって、わたしと共に歩み続けてくださるのです。

…そして、やがて来る終りの日には、わたしたちの涙を、一滴一滴、すべて蓄えてくださっていた神さまが、すべての涙を、ぬぐい取ってくださいます。

ヨハネの黙示録 21：1～4 には、終わりの日のことがこのように約束されています。

「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。『見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初ものは過ぎ去ったからである。』」

わたしたちは、それぞれの悲しみを担いつつも、イエスさまに慰められながら、この慰めの完成の日を待ち望みつつ、歩んでいくのです。

このことを確かにされるのは、主の日ごとの礼拝であり、御言葉であり、イエスさまと一体とされていることを味わい知る、聖餐においてです。

慰めの御言葉を聞きながら、イエスさまと一体とされている恵みを味わいながら、わたしたちは、イエスさまが共にいてくださる確信を強められて、天の国への希望を確かにされて、慰められ、励まされ、また、新しく歩み出して行くことができるのです。

今も、これからも、そして終わりの日に至るまで。神の御子イエスさまが、傍らに立ってください、慰めをもって、共に歩んでくださる。そして、わたしたちの目の涙が、ことごとくぬぐい取られる日が、必ず来る。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。」

今、このイエスさまの御言葉を聞いているわたしたちは、まことに幸いなのです。

**【お祈り】**

天の父なる神さま

わたしたちの日々には、人生には、多くの嘆き、悲しみがあります。

特に、それらは耐えがたい重荷となって、わたしたちの上ののしかかります。

でも、あなたは、わたしたちの嘆きを数えておられ、わたしたちの涙を、あなたの革袋に蓄えておられます。わたしたちの悲しみ、苦しみ、嘆きを、すべてご存知でいてくださいます。

そして、そのためにこそ、御子イエスさまが、わたしたちの重荷をすべて担い、十字架の死に至るまで、わたしたちの悲しみの道を、罪と死に覆われた道を、歩み通してくださいました。

どのような悲惨の中にあっても、悲しみの果てにあっても、御子イエスさまが、そこにも共にいてくださいますことを覚え、感謝いたします。

そしてイエスさまは、十字架の死から復活し、すべてに勝利され、わたしたちを神の恵みの御力によって、支配してくださいます。

どうか、すべてに勝利なさったイエスさまの傍らに、それぞれの重荷を担いつつ歩んでいるわたしたちを置いてください。そして、イエスさまが、わたしたちを担い、支え、慰めてくださり、一人一人が、御国へと至るまで、あなたに与えられた道を、感謝を持って歩み通すことが出来ますように、どうぞお導きください。

そして、世の悲しみに生きるすべての人々が、イエスさまの慰めを知ることが出来ますように。イエスさまと共に生きる幸いに与ることが出来ますように。慰めと希望を与えられますようにと、切に、祈り願います。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

**【讃美歌】** 5 3 2 「やすかれ、わがこころよ」

**【信仰告白】** ニカイア信条

**【十戒】**

**【献金】** 6 5 - 1 「今そなえる」

**【主の祈り】**

**【祈祷】**

**【讃美歌】** 2 9 「天のみ民も」

**【祝福】** 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン